

令和 4 年度 綾瀬市立綾瀬中学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲をもって学習する人</li> <li>・相手の気持ちがわかる心やさしい人</li> <li>・困難をのりこえてやりとげる人</li> <li>・心と身体の健康な人</li> </ul>	
<p>学校経営方針 (グランドデザイン)</p>		
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学習する生徒のための授業づくりに努め、自ら学ぶ力を身に付けた生徒を育てる</li> <li>2) 生徒に寄り添って必要とする支援を行うことで、心やさしい生徒を育てる</li> <li>3) 一人ひとりを勇気づける指導で、心豊かな活力のある生徒を育てる</li> <li>4) 保護者や地域と協働して、心と身体をコントロールできる生徒を育てる</li> </ol>	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	<p>学校は、「意欲を持って学習する人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。</p>	<p>生徒の約 8 割が肯定的回答でした。教職員は全員が「工夫改善をしている」と答えています。年間を通して、各自が ICT を有効に活用した授業改善に努めたことが、生徒の意欲や教職員の意識向上につながっていると思われます。具体的には、活動を動画保存して振り返ったり、難易度別の個に対応した教材を提供したりしました。さらに、少人数授業や放課後の学習室の開設などで、一人ひとりの課題の克服にも力を入れてきた成果と考えられます。課題としては保護者の肯定的回答が約 7 割でしたので、家庭学習について「家庭学習の習慣化」を奨励するために学区小学校と小中連携の取組を継続していきます。</p>
2 教育課程	<p>生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。</p>	<p>9 割以上の生徒と 8 割以上の保護者が「積極的に参加している」と回答しています。このことから部活動や体育祭、合唱祭に対して意欲的に取り組んでいる様子が窺えます。これは、生徒の自主性や主体性を重視し、全教職員がその理解のもと指導している成果と思われます。行事運営のサポートをしてくださる保護者の方も多く、学校の取組に対する協力と理解が深いと思われます。コロナ禍で活動の制約を受ける部分も多いですが、いろいろな工夫をしながら、生徒活動の様々な場面において、生徒一人ひとりの自主的、主体的な活動を大切に、自己有用感や達成感を味わえるような活動の支援を心掛けていきます。</p>
3 児童・生徒指導	<p>学校は、「相手の気持ちがわかる心やさしい人」を育てる指導を積極的に行っている。</p>	<p>9 割以上の生徒と保護者が「思いやりの気持ちをもって接している」と回答しています。そして 9 割以上の教職員が「良好な人間関係作り」に努めていると回答しています。昨年度に比べて、生徒の「思いやりの気持ちをもって接している」と回答した割合は増えていきます。本校生徒の素直で心やさしい気質は、教職員、生徒、保護者の人間関係にも支えられていると考えられます。今後も生徒との良好な人間関係作りを意識し、道徳教育や読書活動の推進に努めるとともに、PTA あいさつ運動など、保護者と教職員が生徒の健全育成に向けた活動を通して、心の育成を図っていきます。</p>

4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	<p>9割の生徒が「学校生活が楽しい」と回答しており、学校生活にほぼ満足している様子がうかがえます。これは、学校行事や部活動がほぼ通常通りに実施されたことで生徒の活躍の場ができ、充実や満足につながっているためと思われます。</p> <p>また、教職員が生徒一人ひとりのさまざまな課題に丁寧に対応した成果とも考えられます。一方、人間関係や学習面、生活面などに課題や不安を抱え、学校に来にくくなる生徒が増えていることにも留意していく必要があります。</p> <p>今後も月末のスクールアンケート、学級集団アセスメント、教育相談等、生徒理解に向けた相談活動を継続して行うとともに、学級活動における意欲や満足感が高まるようにソーシャルスキルの向上を図り、校内の支援教室、教育支援教室（ルピナス）と密に連携を取りながらいじめや集団不適應等の生徒がなくなるような学校生活の支援の工夫をしていきます。</p>
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	<p>今年度も保護者と教職員では取組に対する評価に差があります。「そう思う」「ややそう思う」という保護者からの回答が占める割合は昨年度より少し下がり7割でした。「あまり思わない」「思わない」という保護者からの回答が3割近くを占めていることを受け止め、「いじめ0」を目指し、全教職員でいじめの早期発見・再発防止の取組を徹底していく必要があると考えます。</p> <p>具体的な取組として、月末のスクールアンケートで生徒の状況を把握し、いじめがあった場合は速やかに聞き取りを行いチームで対応します。情報モラル講演会の開催など、SNSが起因するいじめ等の未然防止にも力を入れるとともに、いじめ発生後の指導と見守りを大切にします。併せて、部活動や学級活動で、いじめ防止宣言の作成、道徳の時間では生徒の心の教育に努め、一人ひとりが人権を大切に作る学校・学級づくりを目指した指導に努めていきます。</p> <p>また、日ごろからご家庭と学校とで情報共有を行い、連携した対応ができるよう心掛けていきます。</p>
6 保健管理	学校は、「心と身体の健康な人」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	<p>昨年度を上回り、8割以上の生徒や保護者が、健康や体力に関心を持って生活しています。教職員も8割以上が肯定的な回答であり、生徒の姿に反映されているのではないかと考えられます。コロナ禍においては、感染予防対策を継続しました。内容は手洗いやマスクの着用、検温の確認、換気、黙食などです。</p> <p>今後も、生徒の心と身体の成長にむけたきめ細かい支援を行い、より一層指導の充実を図りながら、生徒が健康に学校生活を過ごせるように努めていきます。</p>
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	<p>全教職員が、生徒の安全を意識した教育活動を実践していると回答し、9割以上の教職員が施設の点検・整備にも努めていることがわかります。さまざまな場面において、非常事態を想定し、生徒の安全確保に対する教職員の問題意識が高まっている成果だと思われます。</p> <p>今後も、地震・天候災害等を想定した防災教育を再検討し、計画的に実施し、生徒・教職員の災害時の対応にむけた意識を高めるとともに、定期的な施設の点検・整備をすすめていきます。併せて救命処置の研修を教職員だけでなく、部活動代表生徒などにも実施しており、生徒の安全に努めていきます。</p>
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	<p>すべての教職員が個に応じた支援の工夫をしていると回答しています。</p> <p>今後も、教職員の共通理解のもと、生徒一人ひとりの課題や教育的ニーズに応じた支援が強化できるように、支援ルームの活用や支援担当職員による教室での支援等、校内の支援体制の整備に努めていきます。</p> <p>また、保護者との強固な信頼関係を築くとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用や教育相談関係機関とも連携を強化し、より充実した生徒支援に取り組んでいきます。</p>
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	<p>肯定的評価をした教職員が9割以上でした。校長を中心とし、各グループの所掌事項や昨年までの取り組みの確認をグループリーダーを中心として行ってきた結果と考えられます。</p> <p>今後も、学校運営組織がより機能するように、建設的に評価・見直しを行い、連携・協働して業務が遂行できるように意識向上を図っていきます。経験の浅い教職員の育成も校内で図り、学校運営を強化していきます。</p>

10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	「指導力向上・授業改善にむけた校内研究」への取り組みは約8割、「教師の力量を高めるための研修」への取組は、昨年より減少しましたが6割以上の教職員が肯定的な回答をしています。積極的に取り組みたい気持ちは持っていても各自で自己研鑽の時間の確保が難しいためと思われます。 今後も、教科指導力を高めるために校内研究を通して授業改善にむけた取組を推進していきます。 また、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	ほぼすべての教職員が、学校教育目標を意識した教育活動をしています。しかし、保護者のアンケート結果からは「そう思う」「ややそう思う」を合わせた回答は約6割であり、十分に保護者へ伝わっていない現状があります。今年度は学校教育目標の見直しをしました。来年度は新たな学校教育目標をもとに教育活動を行います。今後も、あらゆる機会に保護者への学校教育目標の周知を図るとともに日々の教育活動への参観の呼びかけを工夫していきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	保護者の肯定的回答が8割以上でした。保護者に学校の様子が伝わるよう、データによる通信のスクリーンを導入したことによって保護者に情報が届くようになったと考えられます。ただ約2割の家庭にはまだまだ届いていないこともあるため、データによる案内を継続していきます。 今後も、保護者にとって必要な情報、学校行事での生徒の様子を学校通信、学年だより等で適宜発信し、懇談会や保護者全体会等を通して生徒の様子や課題などを伝え、学校からの情報を家庭や地域に届けていきます。 また、昨年度に引き続き地域の方の参観はできませんでしたが、体育祭などの学校行事を地域の方々が参観していただけるよう積極的に広報していきます。
<p>【学校運営協議会からの意見及び改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭での縦割り種目は評価できる。今後も継続してほしい。学年を超えた繋がりが強まると、部活動での波及効果もあると思う。縦割りの交流をもっと持つことができるとよい。</li> <li>・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーについてのアナウンスをしてほしい。相談できる相手がいない保護者もいるようなので、ちょっとしたことでも相談できるということが伝えられると保護者も安心するのではないかな。</li> <li>・安全については学校で気をつけるように生徒に伝えてくれることは評価できる。同時に生徒には世の中の動きがどうなっているのか、視野を広げるためにもニュースなどを見るように話をしてほしい。</li> <li>・今後も校内研究の充実を図ってほしい。若手教職員の成長も期待している。</li> <li>・授業などでタブレットを活用していることは評価できる。今後は授業だけでなく、タブレットを用いた家庭学習の充実を図ってほしい。</li> </ul>		